

第9回 「地方都市の魅力向上—立地適正化計画」講習会 開催報告

日時：令和4年9月9日（金）9：00～12：30

場所：Zoomミーティング

講師：外尾一則（佐賀大学名誉教授，北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科研究協力者）

参加者：唐津市都市計画課5名，松野尾仁美（九州産業大学・准教授），永家忠司（大分高専・准教授），猪八重拓郎（佐賀大学・准教授）

<報告>

第9回講習会においては，拠点機能と賑わいの創造の観点から，換地手法を用いた高質な公共空間の創出や駅と周辺市街地の一体的再構築，地域の実情に合わせた柔らかい再開発事業，WEDO（Walkable, Eye level, Diversity, Open）の考え方に基づいた歩きたくなるまちなかの創出，駐車場の配置の適正化による街並みや歩行環境の改善などのお話がありました。また，こうした事業を通してエリアとしての価値を向上させることが持続可能性を向上させることに繋がるのお話がありました。

文責：猪八重拓郎（佐賀大学工学部，E-mail: d3236@cc.saga-u.ac.jp）

第9回 拠点の基盤・空間の再編と賑わいの創造

1. 空間再編賑わい創出事業(誘導施設整備区制度)

- ・高質な公共空間の実現
- ・「誘導施設整備区」の新設
- ・モデルイメージケース

2. 駅と周辺市街地の一体的再構築(「駅まち再構築」)

- ・駅まち再構築のポイント
- ・まちなか駅構築の事業手法・支援制度等

3. 市街地整備の方針の転換

- ・「価値」・「持続性」を高める複合的更新へ
- ・柔らかい再開発へ

4. まちなかうオーカブル

- ・WEDOとは
- ・まちなかうオーカブル推進事業

5. 駐車場の配置適正化

- ・ 駐車場の配置適正化のイメージ
- ・ 駐車場の配置適正化に向けた制度
- ・ まちづくりと連携した駐車場施策ガイドライン

■ 資料作成者、連絡先

- ・ 外尾一則; 佐賀大学名誉教授、北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科研究協力者
- ・ メールアドレス; kazu1948nori@gmail.com , k-hokao@kitakyu-u.ac.jp

(参考) 地域拠点形成において考慮すべき視点

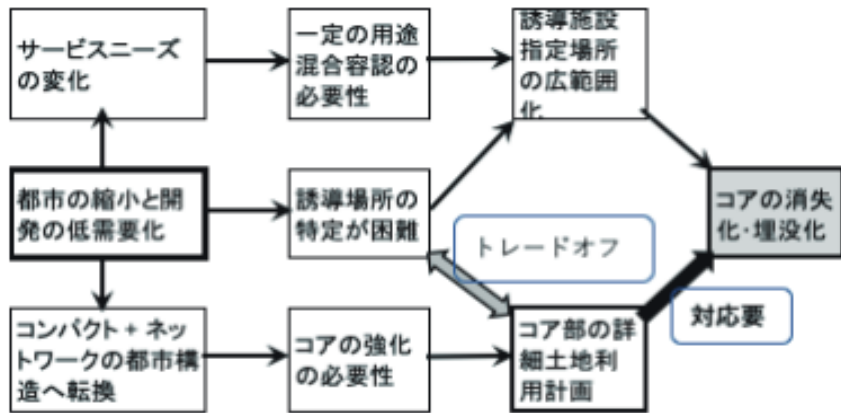


図3 地域拠点形成における計画課題の構図

(出典) 浅野 純一郎, 「立地適正化計画の理念と拠点形成の課題」
土地総合研究 2019年春号

コンパクトシティの 拠点づくり

魅力的な場をつくる
都市計画とデザイン

著者 野嶋 浩二、松浦 健太郎、樋口 清



人口が増えても豊かな都市生活を実現するには、
都心、生活圏、田舎・中山間部、それぞれに
拠り所となる「場」が必要だ。
街のどこに配置するのか、市民や企業のかをどう誘引し、
設計や運営はどうするのか。
先進40事例を紹介し、拠点のつくり方を示す

都市機能誘導区域の指定にはリアリティ、実現性、総合的な計画論という大きな問題があり、下記のような課題が重要になると考えられる。

- ・都市の縮小化においては拠点強化の必要性和コアの場所を特定する誘導場所の指定が困難というトレードオフがあり、地区計画を都市機能誘導区域とセットで指定するなど詳細な将来地区像を描くこと（浅野教授）
- ・拠点の階層性の設定においては、小さな拠点を含む広域的な視点が必要であること（谷口教授）、広域的な拠点の設定問題に対し、既存の施設と公共交通網を考慮した拠点設定手法（巖先鏞氏・長谷川大輔氏）など合理的な設定支援手法の開発が求められること
- ・計画からデザイン・運営までの一連を視野に取り組むこと（野嶋教授等）

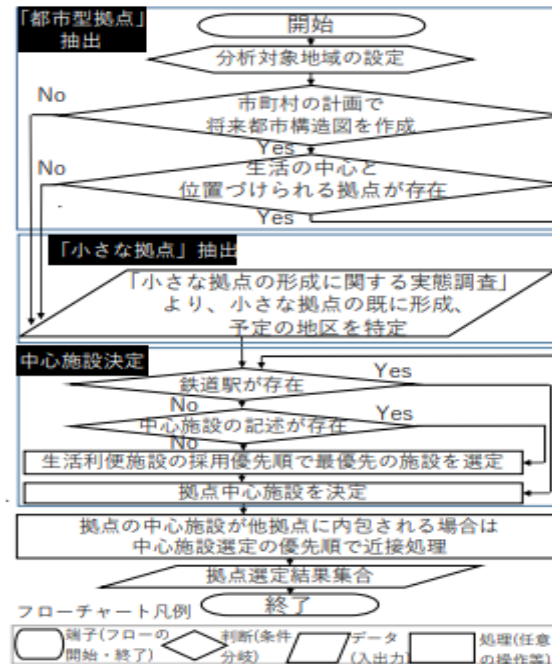


図3 拠点抽出概要フローチャート

(出典) 下山 悠・森本 瑛士・森尾 淳・谷口 守、
「広域的にみた拠点の階層性に関する実態分析」第59回土木計画学研究発表会・講演集

- ・集合被覆問題（Daskin, 1995）として定式化
- ・現状の施設と公共交通網を有効活用したとき目標値といえる達成できるカバー利用時間がわかること、新しい施設の立地よりは既存施設を活用した効率的な拠点配置が必要であること、拠点の設定において目標カバー移動時間により拠点配置が大きく異なることを明らかにした。
- ・既存施設とネットワークを有効に活用しながら住民の利便性の確保ができる都市構造の実現に貢献することが期待できる。

(出典) 巖先鏞・長谷川大輔「既存施設と公共交通網を考慮した拠点設定手法の検討」科研費 19K15185 助成研究

作成；永家（大分高専准教授）